蝶戀花

描きおろし新作

流金歲月

陳淑芬

Chen Shu Fen

ただ、絵を描きたいと思います。

三つ編みの子

初めて彼女と会ったときの記憶は、色褪せた写真のようにおぼろげです。

彼女と私は、同じ幼稚園でした。お人形みたいな可愛い子、そばに近づきたい、髪を触りたいと思いました。でも、勇気がなくていつも遠い所から見ていました。

彼女は耳が悪いようで補聴器をつけていました。

誰かが話かけるといつも「なに?」「もう一度言って」と返事をしていました。

私も彼女を真似して、父のヘッドフォンをつけ、家族が話かけてくるとわざと聞こえないふりをして「なに?」「もう一度言って」と答えていました。

いつも三つ編みだった彼女は、今までに見た中で一番可愛い女の子だと思います。

初出　一九九九年月刊「談星」（台湾尖端出版刊）

従姉妹　その1

凄く真面目な子。何に対しても真面目です。
十五歳の時に、一緒に携帯電話を買いに行きました。

番号を選ぶとき、すごく迷って、いつまでたってもなかなか決められなくて、若い店員さんが、とうとう限界を超えてしまいました。

「この番号にしましょう」
店員さんがリストの中から、特に覚えやすくも、特別っぽくもない番号を指して言いました。
「私がキープしていた番号です。特別なお客さまのためにキープしてたんです。お客さまはすごく可愛いので、この番号を差し上げてもいいと思います。ほかのお客さまには内緒ですよ。」

他愛もない嘘を聞き、私は微笑んで若い店員さんに
「あなたは学校を出たばかりですよね」と言いました。
「そうですよ。卒業してからもう一ヶ月ですけど、どうして分かりました?」
私は、あまりにバレバレの嘘でしたからね、って心の中で呟いていました。

でも、従姉妹は全然そう思ってないようで、店員さんが勧めた番号を喜んで受け取りました。
帰り道、喜びを押さえきれない様子で、彼女は言いました。
「優しいお姉さんですよね。せっかくキープしてた番号を私に…。私が可愛いって褒めてくれたし。あの番号は特別な番号だって言ってましたよね。」

彼女の思いは傷つけたくないけれど、
「本当に、キープしてたと思う? 彼女はね、あなたが早く決めてくれないから嘘を言ったのよ。店員さんの話を全部、真剣に信じちゃ駄目よ。」
と説教しました。

でも、彼女の泣きそうな顔を見て
「だけど私もあの番号は、特別な番号だと思うわ。あなたも本当に可愛いし、それは嘘じゃなかったと思うわ。」
と言いました。

画冥年四〇〇二

二〇〇一年カレンダー（台湾未馬出版社刊）

二〇〇一年台湾の小説表紙（台湾禾馬出版社）

初出　一九九八年ストーリーブック「黄色」（台湾尖端出版刊）　二〇〇四年リメイク

従姉妹　その2

彼女の写真を今までに数万枚以上撮ったと思います。けれど、彼女はそれをほとんど見たことがないんです。はじめは、もちろん見たいと言っていましたが、私はいつも、「そうね、今度ね」と返事をしていました。

いまはもう彼女も慣れてきて、写真を見たいとは全然言いません。いつも写真を撮らせるときは、何も意識していないと思います。

『Meow』のモデルになってほしいとお願いしたときも、私が言った時間と場所に来て、髪をいじってもいっさい文句を言いませんでした。その日は写真の撮影だけではなく、予告なしでビデオも撮りました。

台湾版の『Meow』には、撮影現場のビデオを付録としてつけるという案がありました。私の撮ったビデオは、良く撮れていると思ったし、彼女も可愛いかったので、それを付録にすることをオーケーしました。

でも、彼女には内緒にしておいた方がいいと思って、本が出ても彼女に見せませんでした。

けれど、私が見せなくても、たくさんの人が彼女に見せてしまいました。

彼女は頬を膨らませて、

「もうお姉さんなんか大嫌い！」って言いました。

けれど、三十分もたたないうちに、私たちは笑顔で、寄り添って座っていました。

初出　二〇〇二年「月刊チャンピオン」（秋田書店）

二〇〇三年台湾の小説表紙（台湾未馬出版社）

二〇〇一年台湾の小説表紙（台湾狗屋出版社）

二〇〇二年台湾の小説表紙（台湾未馬出版社）　二〇〇四年版画化

二〇〇四年台湾の小説表紙（台湾狗屋出版社）